宇部市地球温暖化対策ネットワーク　低炭素地域づくり協議会　第１回　議事録

１　日　　時　　2009 年 8 月 25 日（火）13 時 30 分～15 時 30 分

２　場　　所　　宇部市文化会館　研修ホール

３　出 席 者（敬称略）

委員	会長	山口大学大学院理工学研究科准教授	榊原　弘之
		宇部興産㈱環境安全部長	藤川　修三
		セントラル硝子㈱宇部工場環境安全部次長	森下　真孝
		協和発酵バイオ㈱山口事業所宇部環境安全室長	高嶋　則之
		㈱宇部日報社編集局課長	古重　周三
		㈱エフエムきらら取締役コーディネーター	田村　知里
		西日本旅客鉄道㈱山口地域鉄道部企画課長	青木　豊太
		船木鉄道㈱常務取締役	田中　敬一
		サンデン交通㈱自動車部業務担当課長	福本　芳博
		ＮＰＯ法人うべネットワーク	谷（代理）
		宇部商工会議所総務部長	佐々木　克彦
		NPO 法人環境共生機構理事長	臼井　恵次
		山口県地域振興部宇部県民局次長	山本　政夫
		宇部市交通局交通課長補佐	伊藤　修
		宇部市環境部環境共生課長	笹尾　洋二
		環境省中国四国地方環境事務所広島事務所長※	原田　幸也
		国土交通省中国運輸局山口運輸支局首席運輸企画専門官※	山田　雅之
		山口県環境生活部環境政策課調整監※	鳴瀬　嘉史
		山口県地域振興部交通運輸対策室※	山本（代理）

※オブザーバー

以上　１９名

欠席委員		ＮＰＯ法人うべネットワーク理事	作本　季里
		山口県地域振興部交通運輸対策室次長	田中　勉

以上　　２名

事務局	事務局長	宇部市地球温暖化対策ネットワーク	仰木　則康
		〃	中西　弘
		〃	兼久　威矩
		〃	三隅　穀憲
		〃	名越　久美
		〃	今井　貴絵
		株式会社バイタルリード	宮地　岳志
		〃	赤穴　真理

以上　　８名

４　議　事

（１）協議会の設置（規約）について

（２）会長選出

（３）事業案について

（４）今後の進め方（スケジュール）について

５　議事要旨

■協議会の設置（規約）について

事務局　　（規約の説明）

事務局　　拍手を持って承認とさせていただきたいと思う。（拍手）

■会長選出

事務局　　会長選出についてご意見を伺いたい。

伊藤委員　交通問題に詳しい榊原先生が適任だと思う。

事務局　　他に意見がないので、榊原先生にお願いしたいと思う。（拍手）

■事業案について

森下委員　この事業はアウトプットが必要か。

会長　　これは補助事業なので、アウトプットは必要であるが、今年度で終了とうわけではない。事務局として、事業の目標はあるのか。

事務局　　この事業は、自発的に行ってもらうものなので、目標自体は持っているが、それを表に出していいものか考える必要がある。必要であれば、次回の協議会で公表する。

会長　　企業の取り組みについて紹介していただきたい。

森下委員　省エネ化、効率アップは実行している。また、月１回ノーマイカーデーを設定し、出来る人のみ参加している。

会長　　宇部興産さんはいかがでしょうか。

藤川委員　省エネ化等のほかに、バイオマス、ノーマイカー運動を実施して、事業所ごとに CO2 を計測している。ただ、自発的に行うことは難しい。

会長　　協和発酵バイオさんはいかがでしょうか。

高嶋委員　ノーマイカーデーを実施している。できるだけ多くの従業員が家に帰っても CO2 の削減を意識することを目指しているが、地に足をつける活動は難しいので、繰り返し行おうと思っている。

会長　　3 社（セントラル硝子、宇部興産、協和発酵バイオ）は４～５年前から市の事業で公共交通利用促進の取り組みに参加していただいている。そのときは出来るが、持続するためには自発性に期待しないといけない。自分は自転車で通勤しているが、大学もマイカーから脱却できておらず、

クルマに頼っている。100%電車とか自転車に転換することは難しいので、週に１～2 回でもクルマ以外で通勤するといったことをねらえば、クルマ移動を減らすことができると思う。事務局に質問だが、300 部のアンケートは少数の事業所に配るのか、多くの事業所に薄く広く配るのか。

事務局　エコ通勤の取り組みには多くの企業に参加していただきたい。エコモニターについては、丁寧にコミュニケーションを図っていきたいので、協議会に参加いただいている企業や UNCCA さんの会員企業に協力していただきたいと考えている。属性による関心事（健康、安全など）を丁寧に探っていきたい。次のステップで広域に拡大していったほうがいいと思う。いきなり広域で行うと、違和感を感じる人がいると思う。

会長　佐々木委員はいかがでしょうか。

佐々木委員　久保田市長は、環境に大変興味がある。この協議会と宇部市の関連はどうなのか。自発的といいながら実際の成果は何を求めているのか。全国、山口県に比べて宇部市の CO2 排出量が多い。公共交通の利用者が減少している理由を明確にしていないと、自発的といっても不便だからできないということになってしまう。クルマ通勤をしている人の自転車保有率はどのくらいか。こういったことが明確にならないと、自発的といっても何を目指しているのか見えてこない。JR、交通局、船鉄さんの協力無しでは不可能だと感じた。自分自身もガソリン代が高くなったから、5 年前からマイカーを辞めてバス通勤をしていて、バス通勤は便利だと実感している。実感できれば自発的に行うことができるのではないか。必然性があれば継続できるのではないか。

会長　バイタルリードさんに後半部分についてお答えいただきたい。市の施策との関連については、市の環境共生課の方に話を伺いたい。

事務局　公共交通が不便だと思い込んでいたが、実は便利だったということがあるかもしれない。クルマを使っている人に 1 度立ち止まってもらって考え直してもらいたい。環境や健康や安全などの様々な視点の中から、自分が関心のあることから見直していただいて、自発的に行っていただきたい。もう 1 つは、ノーマイカーデーの実施など外部からの力によって行うものもある。これにより、公共交通を利用してもらって、利便性のよさに気づく方もいると思う。アンケート調査を実施して、公共交通の利便性の有無を調査すると同時に、公共交通を利用しない人の阻害要因を調べたい。100 人については、モニターとして心理的な部分が行動にどう影響を与えているのかを把握したい。事業目標は申請の段階で出しているが、目標を出してしまうと、強制力が働いて色々な方策に影響が出てしまう可能性があるので、次回提示できるかどうかは事務局で検討したい。

会長　佐々木委員から話があった、現状はどうかということについてですが、

宇部市内は一様ではなくて、平地に住んでいる方は自転車を利用する人が多い。甲南方面や岐波方面、川上方面は、クルマを利用する人が多い。山に住んでいる人に自転車を利用してもらうのは無理で、そういう方には公共交通を利用してもらう。また、どうしてもクルマが必要な方はいらっしゃるので、そういう方にクルマをやめてくれというのは言い辛い。少し我慢してもらったら使ってもらえそうな方に絞って働きかけることが重要。宇部市が過去に行った調査のデータや今回行うアンケートも有効だと思う。今回、市は間接的にしか関わらないと思うが、市の施策とも関係あるので、笹尾委員に何か言っていただければと思う。

笹尾委員　2005 年に企業と連携したノーマイカー運動を実施したが、その場だけで終わってしまった。今回の協議会のほうは、特に利便性が高い路線バス沿線にスポットを当てているところが以前とは違う。久保田市長もエコ通勤、公共交通、環境について思いを持っておられる。これまでの取り組みで、原因が分かっていることもたくさんある。市ではサイクル＆ライドなどの事業を実施してきたが、今後は住民の方と議論をして、公共交通の利便性や自転車環境について改善をしていく準備をしている。環境整備が先か意識形成が先かという問題はあるが、連動させながら進んでいけば良いと思う。

会長　宇部市は地域公共交通総合連携計画を策定していて、これは環境だけではなく公共交通を使いやすいものにする計画である。過疎地域の公共交通や市街地のバスのネットワークの改善についても書かれている。10 月にはある程度この計画に沿ったネットワークの改善計画をつくると聞いている。市の取り組みと情報を共有していくことが大切。JR さんはいかがでしょうか。

青木委員　公共交通の利用促進は、色々な自治体で行っていて、出来る限り協力していきたいが、便数を 2 倍に増やすといったことは難しい。自発的ほど難しいことはないと感じている。特に、宇部市は道路もいいし事業所ごとに駐車場を整備されているので、クルマで行くことができる。これがクルマ利用率が高い理由ではないかと思う。都市部は道路が渋滞しているとか駐車場がないとかいった理由で電車やバスを利用している。ある程度制約条件があるため、公共交通を利用しているのが実態ではないかと思う。自発的は難しいという感覚を持っている。

会長　宇部線は重要な資産で、交通体系の中では大きな役割を果たしている。今後、JR さんにも参加いただけるといいと思う。今後、事務局ではモビリティマネジメントや自転車促進を取り組みの準備を始めると思う。意見は事務局に言ってもらえればいい。次回は具体的なものがでてくると思うので、意見等をいただければと思う。

以上